

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	5
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2023」優秀作品選考結果のお知らせ

5月8日に締め切りました、「桜のある水辺風景 2023」にご投稿いただいた皆様、どうもありがとうございました。

今年度も全国各地より、桜のある水辺風景写真を投稿頂きました。

JRRN 事務局メンバー6名で選定した最優秀賞1点、優秀賞2点をインスタの投稿コメントとともにご紹介します。

【最優秀賞 : tadashi_kasai さん】



佐保川の桜並木(奈良県奈良市)
奈良市を流れる #佐保川 の桜並木 #ライトアップ とミニ燈籠流し。水面に映り込む #夜桜 はとても幻想的で、燈籠が彩を添えています。佐保川・川路桜保存会による手作りの #灯籠流し で、使用したコップはゴミにならないよう下流で回収されていました。

【優秀賞 : 仙台市在中 M/Hさん】



「阿武隈川水系白石川の一目千本桜」(宮城県仙台市)
阿武隈川水系白石川の一目光本桜です。天気が良ければバックに蔵王連邦が見えてスバラシイ写真になるのですが天気がイマイチで影しか見えず

【優秀賞 : yamaichi_1961さん】



夕暮れ近く、花見の宴もうおしまい。(東京都調布市)
ゆえあって、このところ「河川推し活」を続けている。とはいうものの、JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク)さんが募集していた「桜のある水辺風景 2023」においては、今年そうした写真を撮っていないため応募を見送っていた。が、過去写真でもOKとの由を数日前に知って、枯れ木も山の賑わいとばかり投稿することに。少しでも呼び水になればよいのだが。夕暮れ近く、花見の宴もうおしまい。

【選考結果資料】

桜のある水辺風景2023 結果概要

- ・応募期間 2023年3月1日～5月8日
- ・応募数 43件 (うちJRRN事務局投稿23件)
- ・投票結果 関係者6名による投票により選定。
(関係者：JRRN事務局6名)
最優秀賞 2点
優秀賞 1点
の加減制。
最優秀賞 1件、優秀賞2件が決定
- ・最優秀賞 No.5 tadashi_kasaiさん (10点)
- ・優秀賞 No.18 仙台市在中M/Hさん (4点)
- ・優秀賞 No.1 yamaichi_1961さん (3点)

【参考 JRRN-Instagram概要 (6/6時点)】

- ・フォロワー数 119名
- ・フォロワー数 125名
- ・投稿数 100件
- ・ <https://www.instagram.com/jrrn01/>

エントリー No.	最優秀賞 (2点)	優秀賞 (1点)	優秀賞 (1点)	合計得点
1	2	1	0	3
5	2	2	0	10
7	0	1	0	1
16	0	0	1	1
17	0	1	1	2
18	2	0	2	4
19	0	0	2	2
11(5/5)	0	1	0	1

受賞作の扱い等について

2022年度 受賞者への謝辞 発送内容 (※2023年度謝辞については現在準備中)

最優秀賞 2名

優秀賞 1名



☆最優秀賞 tadashi_kasai さん
佐保川の桜並木



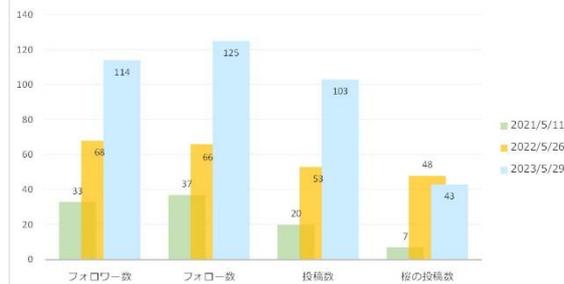
◎優秀賞 仙台市在中M/Hさん
阿武隈川水系白石川の一目千本桜



◎優秀賞 yamaichi_1961さん
夕暮れ近く、花見の夜ももうおしまい。



Instagram投稿の推移



Instagram で「桜のある水辺風景」の応募企画を開始して今年度が3年目となります。

Instagram開設時の2021年度の「桜のある水辺風景」の投稿数は7件でした。今年度の同企画の投稿数は43件となり、約6倍です。

今年度は初めてご投稿いただいた皆様が入賞されたこともあり、JRRNの活動を広く情報発信できたことを嬉しく思います。

これからもJRRNでは、河川や水辺の情報について発信・共有することを目的に活動していきます。どうぞお気軽にフォローや「いいね！」をお願いします。

■ Instagram

<https://www.instagram.com/jrrn01/>

#河川 #河川敷 #水辺 #自然環境 #river

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

**小さな自然再生普及促進プロジェクト – 今年度の「小さな自然再生」現地研修会の開催予告
～今年度は全 6 回の現地研修会を開催する予定で準備を進めてまいります～**

様々な主体と協働しながら、多種多様な生きものが生育・生息できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度の「小さな自然再生」現地研修会の開催希望地を5月中旬まで公募させて頂きました。

※公募ページ：

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1372.html>

全国から多数のご応募を頂き、応募〆切後～5月末まで応募頂いた方々とのオンライン会議等での面談を行った結果、今年度は **全 6 回の「小さな自然再生」現地研修会を開催** することとなりました。

今年度は、岡山県、新潟県、兵庫県で1箇所ずつ、滋賀県内で2箇所、また滋賀県と福井県の県境付近にて1箇所の計6河川での開催を予定しております。現在、各活動主体とのプログラムや開催時期等に関わる事前調整を行っており、各現地研修会の詳細が決まり次第、随時皆様にご案内させて頂きます。

なお、この「小さな自然再生」現地研修会は、公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けてこれまで開催させて頂きました。今年度は年6回開催という新たな挑戦となり、これまでの開催方法に捉われない新たな運営方法を模索しながら開催して参りますので、たくさんの皆さまのご参加をお待ちしております。

(JRRN 事務局・和田彰)

開催地位置図 (2015～2022年度)



昨年度までの「小さな自然再生」現地研修会の開催実績

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

国際交流活動 – 韓国河川協会主催「2023 河川管理ワークショップ」参加報告

2023年4月27日(木)～28日(金)に、韓国・済州島の済州国際コンベンションセンターにおいて韓国河川協会主催「2023 河川管理ワークショップ」が開催され、JRRN 代表理事/リバーフロント研究所審議役の土屋信行が「東京における水防災の取組」をテーマに講演を担いました。

本行事は、韓国における河川管理に携わる自治体関係者や技術者を対象に開催され、本年は「持続可能な地域に根差した河川空間管理の方向性について」をテーマに開催されました。なお、韓国河川協会は、アジア河川・流域再生ネットワークの韓国窓口を務めております。

韓国では、河川管理が(日本における)国土交通省から環境省に移管されおり、初日午前の部では、韓国環境部の河川計画課、水資源政策課、環境政策課より韓国における河川管理施策の紹介がありました。また午後には、ソウル市と東京における都市水害対策、韓国水資源公社より水資源問題、また韓国応用生態工学会より自然環境や水辺空間に関わる講演等が行われました。

新型コロナウイルス感染拡大がようやく収束し、河川分野の対面による国際交流活動も徐々に復活して参りました。JRRN では、川づくりに関わる海外の知見の国内還元、また日本が培った経験の海外普及に引き続き努めてまいります。



(JRRN 事務局・和田彰)

6月



あの日のあの川 リレー日記 ～第68話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第68話主人公 玉置千紘

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：東京都呑川)

「車窓からの景色」

いつのこと？： 大学2年

どこの川？： 千曲川(長野県)

白川研究室の玉置と申します。今回は、私が川や水資源に興味をもつようになったきっかけとなる思い出について、拙文ではありますがお話しさせていただきたいと思います。

私の実家の近くには、呑川という二級河川が流れています。付近の学校の校歌には必ずと言っていいほど登場する呑川ですが、正直私にとってそれほど思い出のある、親しみのある川ではありませんでした。というのも、川沿いには柵があり、川の水は道の高さよりずっと下の方を流れており、遊ぶことも、土手で過ごすこともなかったからです。川の近くには住んでいました

が、川にそれほど興味を持たないまま大学生になってしまいました。

大学に入ってから、都市計画に興味を持ち学んでいました。しかし学びを進めるうちに、都市をマクロ的に見る都市計画と自分の興味に少しずつギャップを感じるようになりました。しかし何に興味があるのか明確にわからないまま、2年生になってしまいました。そんな2年生の夏に、川に興味をもつきっかけとなる出会いがありました。

2年生の夏、講義の課題のために糸魚川市に行くことになった私は、東京駅から北陸新幹線に乗りました。特にやることもなく、窓際の席だったのでなんとなく車窓から外の景色を眺めていました。曇り空の東京の景色を見ていると眠くなってきて、出発してすぐに寝てしまいました。目を覚ますと、新幹線はちょうど長野県の上田のあたりを走っていました。長野は明るく晴れていて、思わず外を見た瞬間、私は、岩の間にキラキラと光る千曲川の水面に恍惚として見入ってしまいました。川はこんなにも美しいのかと純粋に感動し、川を過ぎてからもしばらく動けずじまいました。それほど何かに感動したのは初めてでした。

その千曲川との出会いをきっかけに、散歩中にもよく川や池の水面を観察するようになりました。その時ほどの衝撃はないものの、水を見ていると心が動かされ、気持ちが澄んでいくような気がして、事あるごとに川や入り江、池などを見に行くようになりました。すると今まで建築物や公園ばかりを見てきた都市の中に、想像していたよりもずっと多くの水辺空間があることに気づきました。そして、自分はマクロな都市計画よりも都市の構成要素としての水に興味があるのかもしれないと思い、白川研究室に入りました。

研究室配属をきっかけに足を踏み入れた「川の世界」は、私が思っていたよりもずっと奥が深いものでした。川に関するシンポジウムやイベントに参加し、川を愛する方々のお話を伺ううちに、自分の身の回りの河川についても興味湧いてきて、呑川について改めて調べてみました。するとあまり気にも留めていなかった呑川で、こまめな河床清掃やスカム対策など水質浄化のためにあらゆる努力がなされていること、呑川の生態系を守るために日々活動している方々がいることがわかりました。当たり前のように流れている川は、沢山の人の努力によって守られているのだと痛感し、川を見る視点がまた1つ増えました。

川は人類の歴史と密接にかかわっており、川に関する研究分野は非常に多岐にわたっていて、勉強していて飽きることはありません。これからも様々な川を見て、楽しみながら学びを深めていきたいと思います。

(次は丸山達也さんにバトンを託します)

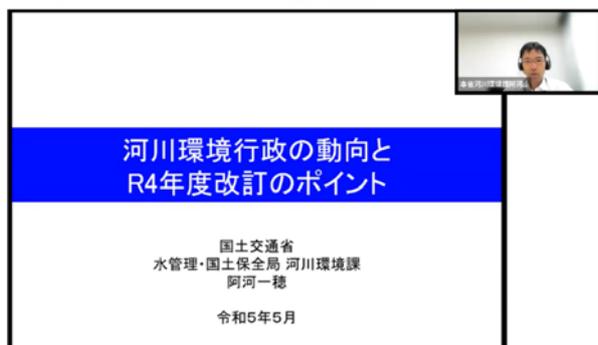
「リバフロサポートセンター」からのお知らせ(1) RiverFront Support Center

※「リバフロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバフロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

「大河川における多自然川づくり～Q&A 形式で理解を深める～」 第9回目のウェブセミナーを開催しました！ 次回は7月下旬頃、開催予定です！

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：渡邊祐介）

■第9回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー



「第9回 大河川における多自然川づくりウェブセミナー」を令和5年5月17日（水）に開催しました。

第9回目は、「河川環境行政の動向」と「多自然川づくりにおけるグリーンインフラ活用のポイント」に関して、「河川環境行政の動向とR4年度改訂のポイント」と題して国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課の阿河課長補佐より、「Q2-2 多自然川づくりにおいてグリーンインフラ活用のポイントについて教えてください」と題してリバーフロント研究所の中村主席研究員よりご紹介頂きました。

参加申込者は、おおよそ行政関係者が3割、コンサルタント関係者が6割で全体の約9割を占めており、合計で約486名の方々に参加申込いただきました。参加者の皆様ありがとうございました。

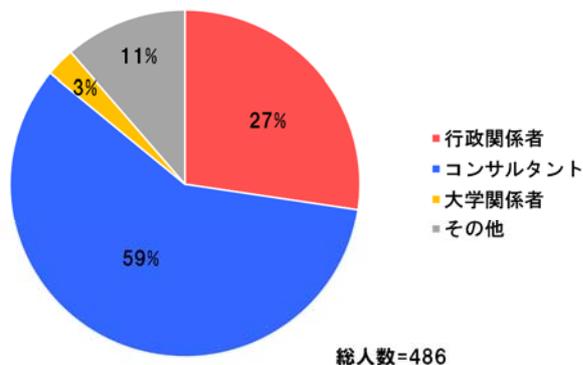


図 参加申込者の職種分類

<第9回 ウェブセミナー開催概要>

- 開催日時：令和5年5月17日 16:00～17:00
- 開催形式：ZOOM ウェビナー
(事前申込制、参加費無料)
- タイトル：「河川環境行政の動向」と「多自然川づくりにおけるグリーンインフラ活用のポイント」
- プログラム：
 - ① 河川環境行政の動向とR4年度改訂のポイント
講演者：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐 阿河 一穂
 - ② Q2-2 多自然川づくりにおいてグリーンインフラ活用のポイントについて教えてください。
講演者：公益財団法人 リバーフロント研究所 主席研究員 中村 圭吾
 - ③ 意見交換
- CPD：1.0単位（土木学会認定）

■次回開催予定、過去の講演動画の紹介

次回は7月下旬開催予定で調整中です。

また、過去の講演動画はリバーフロント研究所 HP にて公開中です。

次回の開催案内、過去の講演動画等の詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.rfc.or.jp/daikasen.html>

■大河川における多自然川づくり-Q&A形式で理解を深める

本書では、大河川における多自然川づくりを実践するため、現場で直面する課題を Question とし、これに Answer とし、答える形式で、これまで日本が蓄積してきた知見が分かり易く紹介されています。

※本 Q&A のダウンロードはこちらから

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/tashizen/qa.html

「リバフサポートセンター」からのお知らせ(2) RiverFront Support Center

第17回「小さな自然再生」現地研修会 in 霞ヶ浦のフォローアップ報告

「小さな自然再生」事務局（担当：和田彰）

2023年1月に開催しました「第17回 小さな自然再生 現地研修会 in 茨城県土浦市・霞ヶ浦」のフォローアップ活動の一環で、現地の環境保全や維持管理に尽力されている NPO 法人水辺基盤協会の定例活動に参加させていただき、研修会で設置した木製魚道や素掘り魚道、またその後に設置された湖と植生浄化施設を繋ぐコーピング削り魚道や野焼きの効果を経過観察してきました。



魚道の最下流部のコーピング削り魚道周辺の生物調査



素掘り魚道部の生物観察



木製魚道の遡上状況や産卵有無の調査



水路内の魚類調査による魚道効果の確認



水際の植物に関わるレクチャー

NPO 法人水辺基盤協会のみなさんと（公財）リバーフロント研究所の魚類及び植物の専門家による合同調査により、魚道や野焼きの効果の観察、また今後の継続的にモニタリングしていく上でのポイントなどについて知見を共有しました。

植生浄化施設内の自然環境の更なる改善に向けて、NPO 法人水辺基盤協会では掘削やワンド整備などに取組んでいくことです。今後も植生浄化施設や水路の変化について共有頂きながら、小さな自然再生の効果について知見を深めていきたいと思っております。

NPO 法人水辺基盤協会の皆さま、どうもありがとうございました。

※「第17回 小さな自然再生現地研修会 in 茨城県土浦市・霞ヶ浦」開催報告書はこちらから

<http://www.collabo-river.jp/events/17thjrrntraining20230114reportbook/>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2023年5月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 土木学会デザイン賞 2023 募集のお知らせ

今年の土木学会デザイン賞 2023 (主催: 公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会) が現在募集中です。皆さまが取り組まれている川づくりの成果をご応募してみてもいかがでしょうか?

土木学会デザイン賞は、土木構造物や公共的な空間を対象として、作品に貢献した人物・組織の顕彰を行うものです。

2001年度の創設以降、これまでに216作品が受賞しております。

昨年度は、15年ぶりに30件を超す応募作品が集まる中、17作品が受賞し、表彰制度としての盛り上がりを見せております。

5月1日より今年度のエントリーを開始しておりますので、関係者の方々には、奮ってご応募・ご推薦いただきたく、お願い申し上げます。

(エントリー締切は6月30日迄、応募書類締切は7月3日迄です。)

詳細はデザイン賞ウェブサイトの募集要項をご覧ください。

<http://design-prize.sakura.ne.jp/applicant>

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4198.html>

土木学会デザイン賞 2023
CIVIL ENGINEERING DESIGN PRIZE 2023, JSCE
2023年度 土木学会デザイン賞 エントリー募集のお知らせ

土木学会デザイン賞は、公益社団法人土木学会 景観デザイン委員会が主催する顕彰制度です。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品、およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。

本賞は2001年度に創設され、過去22年間に226作品を表彰しています。近年では、規模は小さくとも地域の日常生活の魅力づくりに貢献している作品や、防護欄などの普及品のデザイン性を高めて公共空間の質の底上げを図った製品など、授賞対象も広がっています。これまでの授賞作品は、本賞のウェブサイトにてご覧いただけます。皆様のご応募をお待ちしております。

対象作品
竣工または完成後1年経過したものの(2022年6月30日以前に竣工または完成したものの)
(注: 2014年度より「竣工後2年」から「1年」に変更しております)

日本国内に存在する、道路・橋脚・築地・広場・公園・駅・河川・海岸・空港等の公共施設・公共施設、新築・改築など公共性の高い建築・構築・土木・都市・建設等の構造物等、実用した作品。あるいは公共施設で特許権に取得した発明品等。
(ただし製品や材料は、すでに複数の使用実績があることが条件となります。)

2023年度スケジュール
(都合により変更することがございます。詳細は本賞ウェブサイトにてご確認ください)
作品募集(7月上旬) ▶ 一次審査会(7月中旬) ▶ 現地視察 ▶ 二次審査会(10月中旬) ▶ 最終発表(11月中旬) ▶ 授賞式・授賞者レセプション(1月下旬)

応募に先立ち、エントリーをお願いします。
エントリー受付期間: 2023年5月1日(月)~2023年6月30日(金)
応募書類受付期間: 2023年6月1日(木)~2023年7月3日(月) 当日消印有効

詳細は土木学会デザイン賞ウェブサイトをご覧ください。
<http://design-prize.sakura.ne.jp>

※デザイン賞の発注制度について
本賞では、デザイン賞の普及を目的とした発注の募集も行っております。募集要項とともに、作品の名称、所在地、竣工時期、製作者などの詳細の掲載も、本賞ウェブサイト内のお問い合わせフォームよりお送りいただけます。詳細はウェブサイト内の「作品発注募集」のページをご覧ください。
問合せ先: 〒160-0004 東京都豊田区新井1丁目5番50号 公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会 デザイン賞事務局 E-mail: prize@jsce.or.jp

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第16回 隅田川クリーン大作戦 (6/17開催)

第16回 隅田川クリーン大作戦
令和5年6月17日

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会より、本年6月の隅田川クリーン大作戦のご案内です。(JRRNも実行委員として協力)

日時: 2023年6月17日(土) 9:00~12:00
場所: 隅田川 ■参加費: 無料

◆詳細は以下参照
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4186.html>

【海外からの提供情報】

■ ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号紹介



Content

- Introduction
- Declaration of the 4025 River Restoration Centre (RRC) Annual Network Conference
- Webinar: A European National River Corridor Restoration Policies Review
- Webinar: LOW-TECH PROCESS-BASED RESTORATION OF RIVERSCAPES
- REMOVE AND RESTORE 2 SEMINAR FINLAND
- RIVER MANAGEMENT AND ECOLOGY 2023
- IV Libation Conference on River Restoration

ECRR (欧州河川再生センター) のeNEWS最新号(2023年5月号)が事務局より届きました。

本号では、英国河川再生センターの年次講演会声明、また欧州における河川再生に関わる行事が紹介されています。【言語: 英語】

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4191.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

